

節電チャレンジの進行状況について

本学では、今年度から整備した環境マネジメント体制の下で、東日本大震災による社会の気運も察知し、この夏「節電チャレンジ」に取り組んでいます。

具体的には、扇風機・うちわの配布など、教職員・学生に対する啓発を目的としたソフト面での対策を中心に進め、構成員の協力を得て順調に推移している状況にあります。7月の実績をもとに、途中経過を報告します。

(今年度の電力使用量について)

まず、今年度の電力使用量を省エネ法上の基準年2008年および昨年度と比較すると、ほとんどの日において電力使用量が大幅に下回っていること、使用量の基礎部分であろうと思われる日曜日における使用量も相当に減少しています。(配布資料参照：配布資料は、データの見える化の一環としてホームページ上で公開中)

今年度・昨年度の平均気温がほぼ同様(29.9度/30.0度)であったことから、多くの構成員の協力による節電効果があらわれたのではないかと、また、日曜日のデータからは待機電源や全体の基礎部分の引き下げが図られたのではないかと考えられます。

これらの要因としては、気象条件などの種々の要因がありますが、大規模なハード的設備を導入していない状況からすると、構成員の省エネ・節電に対する意識の醸成や気運の高まりが、具体的行動に繋がった大きな要因ではないかと思われます。

(ピークカットについて)

ピークカット(最大使用電力量の削減)にもチャレンジしています。

ピークカットとは、電力の最大使用量を抑えることです。

電気料金は、使用量に応じて支払われる使用料金と、前年度の最大使用量を基準とした契約電力料金で構成されます。夏場・冬場の需要の高い時期における最大使用量を抑えることができれば、翌年度の契約電力料金を低く抑えることができます。

この取り組みについて、学内研究センターなどの協力と各構成員の節電により順調に推移しています。

8/9現在では、昨年度実績の約1割減(契約電力量10800Kwhに対し今年度最高値9540Kwh)となっています。

本学の経費節減だけでなく、電力会社における予備電力の確保・削減など、今の日本の電力需給事情にも貢献できるものといえます。

まだまだ厳しい気象条件が続くことが予想されますが、構成員一丸となって、さらなる節電活動を進めていきます。

【お問い合わせ先】

財務・総務室

リスクマネジメントグループ 藤岡

TEL:082-424-6012、FAX:082-424-6020

